

JINDAI SPORTS

Vol.42

神大スポーツ

「神大スポーツ」では、体育会・文化系問わず、課外活動で活躍する学生や指導者たちの最新記事を掲載！
学内のみならず、広く国内外で活躍する神大生の情報をお届けします。

2026.4.1 [WED]

※掲載している学生の年次は取材当時のものです。

次の世界へ

苦境をバネに、

レスリング部

WRESTLING

星野 レイ 選手

(人間科・2年)
出身校: 日本体育大学桜華(東京)

レスニング部 HP

2025年に開催されたレスリングU20世界選手権において、レスリング部の星野レイ選手(人間科・2年)が見事優勝を果たし、世界の頂点に立った。2023年にも同大会を制していたものの、星野選手はその翌年に前十字靭帯と内側副靭帯を断裂。2度にわたる手術と過酷なリハビリを乗り越えての金メダルだった。「1年間は試練の連続でした。支えてくれた方々への感謝を、優勝という形で伝えられてよかった」と、喜びを噛みしめる。

とはいえ、復帰後初の世界大会出場であつたため、序盤はケガによる不安がつきまとつていたという。「足の踏ん張りがかずバランスを崩したり、思い通りに動けなかつたりして、メンタルが崩れそうになりました」。しかしこの苦難が、試合での劇的な逆転劇につながることになる。きっかけは初戦で相手に6点先取されたタイミングで訪れた。「いきなり自分を客観的に見つめられるようになったんです。闇雲に相手を攻めるのではなく、相手の動きをよく観察し、技のかけどころを静かに見極めよう」と。

そこから冷静に相手を捉えることで、小学1年生から磨き続けてきた得意技「腕取り」をかける最善のタイミングを見極め、星野選手の快進撃が始まることになる。準決勝のモンゴル戦でも5点のリードを許したが、「4秒吸って、4秒止めて、4秒吐く」という呼吸法でメンタルを整え、逆転フォール勝ちをつかみ取った。

こうした土壇場での強さを支えているのが、レスリング部の「鍛え合え、競え合え、そして友であれ」の精神だ。部員同士、互いを尊重し合い、ケガや不調な部員がいれば自然に手を差し伸べる細やかな配慮が根づいている。星野選手は「日頃の部員への目配りが、相手選手への尊重と目配り、見極めの力につながったのだと思います」と語る。

最後に、星野選手に今後の目標をうかがった。レスリング部については「部員同士

世界を視野に入れ戦う 神大のアスリートたち

チーム全員で個々の力を引き出し、
インカレ3連覇をめざす

水泳部

SWIMMING

水泳部 HP

2025年9月に開催された「第101回日本学生選手権水泳競技大会」(以下、インカレ)で、水泳部女子チームは、2年連続4回目の総合優勝の栄冠に輝いた。チームを牽引しているのが、長岡愛海選手(現代ビジネス・2年)と小島優々美選手(人間科・2年)だ。同インカレで長岡選手は、100mと200m背泳ぎで優勝に輝き、これは2年連続の2冠である。そして小島選手は、自己記録を2秒更新して200m平泳ぎで優勝。100mでは2位と健闘した。

水泳競技は個人競技だ。しかしインカレの学校対抗は、全レースの成績を大学別に点数化して総合優勝を競うもので、大学スポーツならではの、名譽をかけたスリリングな戦いが繰り広げられる。

総合優勝をしたことに長岡選手も小島選手も「自分たちだけの成果ではない」と言い切る。長岡選手は水泳部に入学して学んだことのついでに「ひとりの結果を皆で出していくこと、そしてチームで戦うこと」を挙げる。小島選手は「1年生の時からずっと、先輩方に教えるを請い、助けられた。神大水泳部はチームで戦う意識が強いと思う」と、組織としての水泳部の力を語る。

昨年のインカレで特筆できることは、400mメドレーリレーの優勝だろう。第1泳者は長岡選手、第2泳者は小島選手、第3泳者はバタフライの西澤七海選手(人間科4年)、第4泳者は廣光恵奈選手(英語英文・1年)。長岡選手、小島選手のリードを西澤選手が守り切り、廣光選手が最後の激戦を逃げ切った。

レース後のインタビュで、長岡選手は「七海さんのレースは最後。金メダルの念で」、小島選手は「バトンを繋げたかった」と語った。西澤選手は「頼もしい2人からのバトンを1年生に繋げられて嬉しい」と笑みを浮かべた。それを受けて廣光選手は「最後は応えられてほっとしている」と涙を浮かべた。

これからについて、長岡選手は「水泳選手として結果を求めるだけでなく、社会人として成長していきたい」と抱負を語る。小島選手は「この2年間で、自分なりに自立できるようになったと思う。それを後輩にも伝えたい」と語る。この言葉の基にあるの

小島 優々美 選手

(人間科・2年)
出身校: 白鷺女子(神奈川)

長岡 愛海 選手

(現代ビジネス・2年)
出身校: 山形市立商業(山形)

新しい出会い、新しい挑戦。 大学生活をより充実させる第一歩を踏み出してみませんか？

スポーツ系から文化系まで、神奈川大学には多彩な課外活動があります。

まずは気軽にブースをのぞいて、話を聞いて、体験してみましょう。きっと、あなたの「やってみたい」が見つかるはずです。

サークル・クラブ勧誘イベント開催日: 2026年4月2日(木)・6日(月) 両日ともに10:00~16:00

横浜キャンパスの課外活動団体を一部ご紹介

場所

13号館体育館にて各団体がブースを設置し、勧誘活動を実施します。
東門〜神大橋前・中庭にて各団体がチラシ配布します。

体操部



斎藤 亮太 代表
(応用物理・2年)
出身校:星野(埼玉)

身体の動きを追求したい人は 誰でも大歓迎

体操は、競技としての器械体操から、健康・医療・鍛錬・美的表現などを目的とする運動まで幅広い。
神奈川大学体操部が代表を務める斎藤亮太さん(応用物理・2年)は、体操の奥深さについて次のように語る。「器械体操は跳んだり、体を捻ったり、回転したりといった技を磨きますが、基本的には人間の身体の動き方を探索していく運動だと思います。技を磨くことで、鍛えられた体幹や柔軟性が日常生活の中で生かされることに気づくことがありますね。」だからこそ、体操はあらゆるスポーツのベースにもなっていると斎藤さんは言う。
神奈川大学体操部の歴史は、1953年まで遡ることができ、歴史は古い。体操部のOB・OGと体操を通じて交流する機会もある。しかしながら、現在は部員数などが減り、競技会よりも、個人個人が目標を立てて、それに向けて練習を続けることが主になっている。

「今は、勝ち負けにこだわる競

神奈川大学
体操部

技からは離れて、もう一回転ひねりを増やすといった練習を通じて、自分の成長をはかることに重きを置いています。そのため、部の中も和気藹々としていて、お互いに切磋琢磨するような雰囲気です」と斎藤さん。
これからの目標は、練習環境を充実させるために、仲間を増やすこと、体操に興味がある人、運動不足を解消したいという人など、自分の身体について少しでも興味があれば、体操未経験者でも大歓迎。マネージャーなど応援やサポートしてくれる人も募集している。
斎藤さん自身は自分が磨いた技を披露する場つまり競技会への出場も視野に入れて活動をしていきたいと話。

ハンドボール部



相磯 涼太 主将
(法律・1年)
出身校:清水桜が丘(静岡)

楽しみながら勝つことを徹底して、 上部リーグに振り返る

スポーツにおいて、勝つことを優先するのは、または楽しむことを優先するのは、永遠の課題だ。
神奈川大学ハンドボール部は2025年度、関東学生ハンドボール連盟リーグの4部から6部まで連続降格したことを受け、高校時代にインターハイ、国体への出場経験のある1年生の相磯涼太さん(法律・1年)に主将を託すことになった。
「高校までは勝つことを優先しましたが、大学では楽しながらハンドボールを続けたいと思っていました。しかしこの1年間負け続けて、皆で悔しい思いをして、楽しみながら勝つことは難しいのだと、改めて気づきました」と相磯さんは言う。
好きて選んだスポーツだからこそ、選手個々の自主性は重んじたい。一方でハードな練習をしなければ勝つことはできない。「試行錯誤の連続ですが、そんな私に主将をやれと言っていた先輩方に感謝しています」と思いを語る。
自分は改革派かもしれないという相磯さん。皆の意見を聞きながらチームを構成する。

ハンドボール部
Instagram

2026年のハンドボール部のスローガンはBack to the Basics。練習、試合運営において苦しい瞬間は必ずやってくる。そんな時、「基本」に立ち振り返りチャレンジしたいという思いが込められている。
ハンドボールは、走る、投げる、跳ぶの3要素が揃った、運動能力の総合力が求められる。その魅力はスピードに攻守が入れ替わることで、部員は野球やバスケットボール、バレーボールなどの球技、スポーツの経験者も多く、メンバーひとりの長所を組み合わせるチームを構成する。
2025年度の神奈川大学学園内戦では「連覇」を達成し、大学のフットボール同好会リーグ戦で唯一のJFA公認大会の、アットホームカップ関東大会出場を果たした。また、他大学とのリーグ戦「LIGA EVO」を先頭に立つ設立した。「試合数を増やしたいね」という他大学のサカチーの仲間との会話がきっかけだ。スポンサーを付けてながら、学生による自主運営を基本とする。「大学生ですから、可能性は未知数です。そのため自分たちで運営することが大切だ」と思い、次の世代がどのように描いてくれるのが楽しみだという。

建築サークルKAI

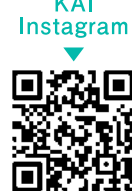


刑部 晃希 代表
(建築・3年)
出身校:浜松西(静岡)

コンテンツを持ち寄る 基地創りプロジェクトに参画しないか

「大学の外に自分たちの基地(ベース)を作りたい」。わずか2名の学生がその熱い思いでプロジェクトを立ち上げ、2025年6月に発足したのが「建築サークルKAI」だ。現在は、1年生から3年生まで20名以上が所属し、プロジェクト実現へ向け、建築展見学、建物の再生プロジェクトへのエントリー、模型制作など多岐にわたる活動を行っている。
そうした活動の原動力は、やはり「自分たちの拠点を自らの手で創り上げる」という設立時からの強い目的意識だ。代表の刑部さん(建築・3年)はこう語る。「授業では得られない、実際に地域に出、手を動かして空間を作る経験をしたいんです。現在は横浜市の助成金制度を活用して大学周辺の空き家を改修し、学生が夜間でも課題に打ち込める場や、地域住民と繋がるコミュニティベースを作る構想の具体化に向けて動いています」。

現在は、プロジェクトの先駆けとして、地域の設計事務所の方にお話を伺った、六角橋商店街の関係者の方々と意見交換を行ったりしている。刑部さんは「こうした活動を通じて、単に完成品を提供するだけでなく、改修の過程そのものを地域に開き、街の人たちや子供たち、学生たちみんなが考え、楽しみながら空間を育てていく体験を共有したい」と思いを馳せる。
今後は拠点としての器を作るだけでなく、コーヒーの提供やDJイベント、ワークショップなど、中で展開するコンテンツの充実にも力を入れていきたい考えだ。「なので空間づくりに興味があれば、文理は問いません。多様な視点が混ざることこそ、予測不能な面白さが生まれるはずですよ」と刑部さん。そんな始まったばかりのプロジェクトに、あなたも参画してはどうだろうか。

建築サークル
KAI

VIVANT



岩谷 虹 会長
(現代ビジネス・3年)
出身校:北海道科学大学高等学校(北海道)

もう一度、熱くなれる場所をつくり、 情熱を燃やし続ける

VIVANTは、会長の岩谷虹さん(現代ビジネス・3年)が1年次の2023年10月に設立したサッカーサークルだ。「高校までサッカーに取り組んだ選手は、卒業時にサッカーから少し距離を置こうと思う人が多い。私もそのひとりでした。しかし大学生活が落ち着くと、もう一度、情熱をもってサッカーをしたいと思うようになった。そういう人は多いだろうと思う。VIVANTを作りましょう」と、設立の動機を語る。
チームスローガンは「情熱のフットボール」。情熱を注ぐのは勝ち負けだけでなく、チームや組織づくり、個人の成長に繋がる様々な部分です」と語る。戦う時は熱く、遊ぶときは徹底的に楽しむがモットー。
草創期のメンバーは4人。新入生勧誘でチラシに工夫を凝らしたり、SNSを活用した広告で他チームとの差別化を図るなど戦略的に行動し、翌2024年4月には100名以上の新入生が加入した。その年の各種大会でも2年生以下のメンバーで参加して、トップラスを勝ち取った。

VIVANT
Instagram

2025年の神奈川大学学園内戦では「連覇」を達成し、大学のフットボール同好会リーグ戦で唯一のJFA公認大会の、アットホームカップ関東大会出場を果たした。また、他大学とのリーグ戦「LIGA EVO」を先頭に立つ設立した。「試合数を増やしたいね」という他大学のサカチーの仲間との会話がきっかけだ。スポンサーを付けてながら、学生による自主運営を基本とする。「大学生ですから、可能性は未知数です。そのため自分たちで運営することが大切だ」と思い、次の世代がどのように描いてくれるのが楽しみだという。
引退となる岩谷さんは、スローガンである「情熱」が後輩に引き継がれ、次の世代がどのように描いてくれるのが楽しみだという。

みなとみらいキャンパスの課外活動団体を一部ご紹介

場所

5階アリーナにて、各団体がブースを設置し、勧誘活動を実施します。
1階メインエントランス外広場にて各団体がチラシを配布します。

英語研究部(E.S.S.)



高田 俊太郎 部長
(英語英文・3年)
出身校:足柄(神奈川)

英語が苦手でも大丈夫 居心地のいい“英語に親しめる場”に

「英語は苦手だけれど、話せるようになりたい」。そんな学生は、ぜひ新生「英語研究部(E.S.S.)」の門を叩いてほしい。新生と表現したのは、かつて部員が2000名以上いた部であったもののコロナの影響で最小3名まで減少し、新たな方針で10名以上にまで復活させた部だからだ。
その新たな方針とは、英語を「ただ勉強するもの」ではなく「楽しむもの」とした点だ。週に数回、英語のボードゲームや、英語を使ったオリジナルのミニゲーム、映画鑑賞など、気軽に参加できる要素をふんだんに取り入れた活動を行っている。高田部長(英語英文・3年)は、私も入学当初は周りの英語力の高さに自信を無くした経験を持っている。と語る。「だからこそ、誰もが英語への苦手意識を克服して、居心地のいい、英語の遊び場を創りたいんです」。

活動の成果は着実に現れている。「当初は一言も話せなかった部員が、ゲームを通じて、AWESOME!などの感情を英語で表現できるようになってきました」。

E.S.S.
Instagram

ゆっくりでも「人ひとりが少しずつ成長している姿を見るのが大きなやりがいだ」と言う。今後はSNSでの発信を強化するほか、ゆくゆくは横浜の街での観光ガイドなどにも挑戦できようになればと、希望を語る。
「Time is money(時は金なり)」。せつかくの4年間を大切に、楽しみながら、私たちと一緒にレベルアップしましょう」と高田部長。80年近い歴史を持ったながらも、より親しみやすい部として再スタートを切った新生E.S.S.。「海外には興味があるけど、英語話なんてとてもムリ」というあなたこそ、ぜひ楽しんでほしい部活と言えるかもしれない。

co-talk



小池 康祐 代表
(国際文化交流・4年)
出身校:高田(新潟)

リアルな議論を通じて 自己理解を深める場を提供

「同じ温度感で深い話ができる学生がなかなかない」「もっと自由に語り合えるスペースが欲しい」という思いから国際日本学部(学生3名)によつて、2025年に設立されたのが、コミュニティサークル「co-talk」だ。
サークルのコンセプトは「今社会で起きていることを本質を考え、自身の価値観と生き方を接続させる」。安心して話せるリアルな場を提供し、テーマは社会問題から個人的なことまで自由。コミュニティとして正確さを求めたり、結論を出すわけでもない。メンバーそれぞれが話し合う活動の中で、思いを巡らせて自身の生き方に適用してほしいという。
代表の小池康祐さん(国際文化交流・4年)はサークル立ち上げの理由をこう話す。「SNSの普及で、匿名性の高いコミュニティが当たり前になっています。しかし、一人で考えても自己理解が進まないことがあり。そこで、あえて対面でアナログに語り合える場を作りたいと思いました」。

大学で学ぶことは、突き詰めれば幅を広げていく予定だ。
「近代のイギリスのコーヒーハウスは、情報交換や議論の場として大きな役割を果たしました。誰もが参加できて、新しい発想や文化が生み出されていく。現代のコーヒーハウスのような場を作りたいと思っています」と小池さん。今後は、学生による発信力を高め、他大学他団体とのプロジェクトなど、活動の幅を広げていく予定だ。

co-talk
Instagramco-talk
HP

新しい出会い、新しい挑戦。 大学生生活をより充実させる第一歩を踏み出してみませんか？

スポーツ系から文化系まで、神奈川大学には多彩な課外活動があります。

まずは気軽にブースをのぞいて、話を聞いて、体験してみましょう。きっと、あなたの「やってみたい」が見つかるはずです。

サークル・クラブ勧誘イベント開催日: 2026年4月2日(木)・6日(月) 両日ともに10:00~16:00

みなとみらいキャンパス

場所 5階アリーナにて、各団体がブースを設置し、勧誘活動を実施します。
1階メインエントランス外広場にて各団体がチラシを配布します。

||||||| みなとみらいキャンパスの課外活動団体を一部ご紹介 |||||

英語研究部(E.S.S.)



高田 俊太郎 部長
(英語英文・3年)
出身校: 足柄(神奈川県)

英語が苦手でも大丈夫 居心地のいい“英語に親しめる場”に

「英語は苦手だけれど、話せるようになりたい」。そんな学生は、ぜひ新生「英語研究部(E.S.S.)」の門を叩いてほしい。新生と表現したのは、かつて部員が2000名以上いた部ではあったものの、コロナの影響で最小3名まで減少し、新たな方針で10名以上にまで復活させた部だからだ。

その新たな方針とは、英語を「ただ勉強するもの」ではなく「楽しむもの」とした点だ。週に数回、英語のボードゲームや、英語を使ったオリジナルのミニゲーム、映画鑑賞など、気軽に参加できる要素をふんだんに取り入れた活動を行っている。高田部長(英語英文・3年)は、私も入学当初は周りの英語力の高さに自信を無くした経験を持っている。と語る。「だからこそ、誰もが英語への苦手意識を克服して、居心地のいい、英語の遊び場をもちたかったんです」。

活動の成果は着実に現れている。「当初は一言も話せなかった部員が、ゲームを通じて、Awesome English!などの感情を英語で表現できるようになってきました」。

E.S.S.
Instagram



「海外には興味があるけど、英会話なんてとてもムリ」というあなたこそ、ぜひ楽しんでほしい部活と言えるかもしれない。

co-talk



小池 康祐 代表
(国際文化交流・4年)
出身校: 高田(新潟)

リアルな議論を通じて 自己理解を深める場を提供

「同じ温度感で深い話ができる学生がなかなかいない」。もともと語りに合えるスペースが欲しい」という思いから国際日本大学の学生3名により、2025年に設立されたのが、「コミュニティco-talk」だ。

サークルのコンセプトは、今社会で起きているこの本質を、自身の価値観と生き方を接続させる。安心して話せるリアルな場を提供し、テーマは社会問題から個人的なことまで自由。コミュニティとして正確さを求めたり、結論を出すわけではない。メンバーそれぞれが話し合う活動の中で、思いを巡らせて自身の生き方に適用してほしいという。

代表の小池康祐さん(国際交流・4年)はサークル立ち上げの理由をこう話す。「SNSの普及で匿名性の高いコミュニティが当たり前になっています。しかし、一人で考えても自己理解が進まないことがあり、そこで、あえて対面でアナログに語り合える場を作りたいと思いました」。

大学で学ぶことは、突き詰めれば幅を広げていく予定だ。

co-talk
Instagram



co-talk
HP



「自分は何か者なのか、これから何をしたいのか、広い意味で自分の生き方を見つけないと、それはSNSでは見つけられない。co-talkは、そうした自己発見や言語化の場を提供してくれる」。

「近代のイギリス・ロー・ハーウスは、情報交換や議論の場として大きな役割を果たしました。誰もが参加できて、新しい発想や文化が生み出されて、現代のco-talkは、まさにその延長線上にあるような場を作りたいと思っています」と小池さん。今後は、学生による発信力を高め、他大学・他団体とのプロジェクトなど、活動の幅を広げていく予定だ。



建築サークルKAI



刑部 晃希 代表
(建築・3年)
出身校: 浜松西(静岡県)

コンテンツを持ち寄る 基地創りプロジェクトに参画しないか

「大学の外に自分たちの基地(ベース)を作りたい。わずか2名の学生がその熱い思いでプロジェクトを立ち上げ、2025年6月に発足したのが「建築サークルKAI」だ。現在は、1年生から3年生まで20名以上が所属し、プロジェクト実現向け、建築展覧会、建物の再生プロジェクトのイベント、模型制作など多岐にわたる活動を行っている」。

そうした活動の原動力は、やはり「自分たちの拠点を自らの手で創り上げる」という設立時からの強い目的意識だ。代表の刑部さん(建築・3年)はこう語る。「授業では得られない、実際に地域に出て、手を動かして空間を作る経験をしたいんです。現在は横浜市の助成金制度を活用して、横浜周辺の空き家を改修し、学生が夜間でも課題に打ち込める場や、地域住民と繋がるコミュニティベースを作る構想の具体化に向けて動いています」。

現在は、プロジェクトの先駆けとして、地域の設計事務所の方にお話を伺ったり、六角橋商店街の関

建築サークル
KAI
Instagram



「今後は拠点としての器を作るだけでなく、コーヒーの提供やDJイベント、ワークショップなど、中で展開するコンテンツの充実にも力を入れていきたい。考えた。『なで空間づくりに興味があれば文理は問いません。多様な視点が生み出されるはず』と刑部さん。そんな始まったばかりのプロジェクトに、あなたも参画してはどうだろうか。



横浜キャンパス

場所 13号館体育館にて各団体がブースを設置し、勧誘活動を実施します。
東門~神大橋前・中庭にて各団体がチラシ配布します。

||||||| 横浜キャンパスの課外活動団体を一部ご紹介 |||||

体操部



斎藤 亮太 代表
(応用物理・2年)
出身校: 星野(埼玉県)

身体の動きを追求したい人は 誰でも大歓迎

体操は、競技としての器械体操から、健康・医療・鍛錬・美的表現などを目的とする運動まで幅広い。

神奈川大学体操部で代表を務める斎藤亮太さん(応用物理・2年)は、体操の奥深さについて次のように語る。「器械体操は跳んだり、体を捻ったり、回転したりといった技を磨きますが、基本的には人間の身体の動かし方を探索していく運動だと思っています。技を磨くことで、鍛えられた体幹や柔軟性が日常生活の中で生かされることに気づくことがありますね」。だからこそ、体操はあらゆるスポーツのベースにもなっていると斎藤さんは言う。

神奈川大学体操部の歴史は、1953年まで遡ることができ、歴史は古い。体操部のOB・OGと体操を通じて交流する機会もある。しながら、現在は部員数などが減り、競技会よりも、個人が目標を立てて、それに向けて練習を続けることが主になっている。

「今は、勝ち負けにこだわらず、競



神奈川大学
体操部
Instagram



技からは離れて、もう一回転ひねりを増やすといった練習を通じて、自分の成長をはかることに重きを置いています。そのため、部の中も和気藹々としていて、お互いに切磋琢磨するような雰囲気です」と斎藤さん。

これからの目標は「練習環境を充実させるために、仲間を増やすこと。体操に興味がある人、運動不足を解消したいという人など、自分の身体について少しでも興味があれば、体操未経験者でも大歓迎。マネージャーなど応援やサポートしてくれる人も募集している」。

斎藤さん自身は自分が磨いた技を披露する場、つまり競技会への出場も視野に入れて活動をしていきたいと語る。

ハンドボール部



相磯 涼太 主将
(法律・1年)
出身校: 清水桜が丘(静岡県)

楽しみながら勝つことを徹底して、 上部リーグに返り咲く

スポーツにおいて、勝つことを優先するの、または楽しむことを優先するの、かは、永遠の課題だ。神奈川大学ハンドボール部は2025年度、関東学生ハンドボール連盟リーグの4部から6部まで連続降格したことを受け、高校時代にインターハイ、国体の出場経験のある1年生の相磯涼太さん(法律・1年)に主将を託すことになった。

「高校までは勝つことを優先しましたが、大学では楽しみながらハンドボールを続けたいと思っています。しかし、この1年間負け続けて、皆で悔しい思いをして、楽しみながら勝つことは難しいのだと、改めて気づきました」と相磯さんは言う。

好きで選んだスポーツだからこそ、選手個々の自主性は重んじたい。一方でハードな練習をしなければ勝つことはできない。「試合開始の連続ですが、そんな私に主将をやれと言っていた先輩方に感謝しています」と思いを語る。

自分は改革派かもしれないという相磯さん。皆の意見を聞きながら



ハンドボール部
Instagram



2026年のハンドボール部のスローガンはBack to the Basic。練習・試合・運営において苦しい瞬間は必ずやってくる。そんな時、「基本」に立ち返りチャレンジしたいという思いが込められている。

ハンドボールは、走る、投げる、跳ぶの3要素が揃った、運動能力の総合力が求められる。その魅力は、「スピーディに攻守が入れ替わることだ。部員は野球やバスケットボール、バレーボールなどの球技スポーツの経験者が多く、メンバー一人ひとりの長所を組み合わせるチームを構成する」。

2026年のハンドボール部のスローガンはBack to the Basic。練習・試合・運営において苦しい瞬間は必ずやってくる。そんな時、「基本」に立ち返りチャレンジしたいという思いが込められている。

VIVANT



岩谷 虹 会長
(現代ビジネス・3年)
出身校: 北海道科学大学高等学校(北海道)

もう一度、熱くなれる場所をつくり、 情熱を燃やし続ける

VIVANTは、会長の岩谷虹さん(現代ビジネス・3年)が1年次の2023年10月に設立したサッカーサークルだ。「高校までサッカーに取り組んだ選手は、卒業時にサッカーから少し距離を置こうと思う人が多い。私もそのひとりでした。しかし、大学生活が落ち着き、もう一度、情熱をもつてサッカーをしたいと思うようになった。そう思う人は多いだろうと思いい、VIVANTを作りました」と、設立の動機を話す。

チームスローガンは「情熱のフットボール」。情熱を注ぐのは勝ち負けだけでなく、チームや組織づくり、個人の成長に繋がる様々な部分です」と語る。戦う時は熱く、遊ぶときは徹底的に楽しむがモットー。

草創期のメンバーは4人。新生勧誘でチラシに工夫を凝らしたり、SNSを活用した広告で他チームとの差別化を図るなど戦略的に行動し、翌2024年4月には100名以上の新入生が加入した。その年の各種大会でも2年生以下のメンバーで参加して、トップクラスを勝ち取った。



VIVANT
Instagram



2025年の神奈川大学学内戦では「連覇を達成し、大学のフットボール同好会リーグ戦で唯一のJFA公認大会のアットホームカップ・関東大会出場を果たした。また、他大学とのリーグ戦「LIGA EVO」を先頭に立つ、設立した。試合数を増やしたいね」という他大学のサッカークラブの仲間との会話がきっかけだ。スポンサーを基本とする。「大学生ですから、可能性は未知数です。そのため自分たちで運営することが大切だ」と思いを込めて語る。6大学でスタートした同リーグは、26年には8大学に広がる。

引退となる岩谷さんは、スローガンである「情熱」が後輩に引き継がれ、次の世代がどのように描いてくれるのが楽しみだという。